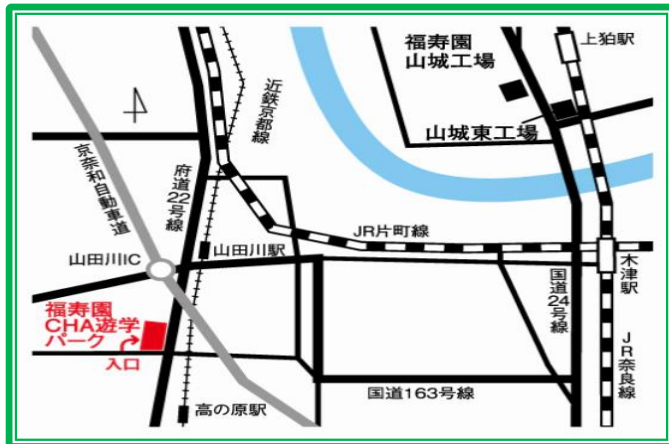


福寿園 CHA 遊学パークに行ってきました！

取材時期：7月上旬

福寿園 CHA 遊学パークって どんなところ？

京都府木津川市にある、お茶の体験・観光ができる施設です。
日本茶の体験や世界の茶に関する見学をすることができます。



京都府木津川市相楽台3-1-1（関西文化学術研究都市内）

《memo》福寿園

寛政2年(1790年)に京都府木津川市山城町で創業した福寿園は、伊右衛門の名でも知られる日本茶の製造・販売会社です。
社名の由来は、「福は幸いの福、創業家・福井の福、寿は108歳をさす『茶寿』に、茶園の園をつけた」とされています。



【抹茶作り】(石臼体験)

石臼を使って、「碾茶(てんちゃ)」と呼ばれる抹茶の素を粉末状にしていきます。
石臼は想像以上に力のいる作業で大変でした。
現在はこの工程が機械化され、手軽に抹茶が楽しめるようになりました。



00:00

期間限定

【茶摘み体験】

茶摘み体験をしている様子です。
茶葉は親指と人差し指の腹を使って摘みます。
この日は雨が降っていましたが、小雨であれば雨具を借りて茶摘みを行うことができます。



00:30



【お茶のいれ方教室】

先ほど粉末状にした抹茶を点てていきます。
一から教わりながら作れるので、初めての方でも安心です♪
完成した抹茶は、抹茶わらびもちと一緒にいただきました。

00:50

福寿園 CHA 遊学パークの方にお話を聞きました。



森崎さん

Q: 茶摘み体験はいつから始められたのですか？

A: 福寿園では、創業200周年を記念して、1990年に研究開発施設の「福寿園CHA研究センター」をオープンしました。研究センターは、お茶の商品開発・技術開発・品質保証などを行う施設としてオープンし、施設見学、茶摘み体験の受入れも行ってきました。

2014年には研究センターを拡張し、新たに「**福寿園CHA遊学パーク**」としてオープンしたことで体験内容を充実させ、今に至っています。

Q: 「福寿園CHA 遊学パーク」はどういった施設ですか？

A: 福寿園では、茶を「CHA」と捉え、C・H・Aを通して、「文化」(CULTURE)、「健康」(HEALTH)、「快適」(AMENITY)を創り出すティーライフ産業に挑戦する企業として、日本はもとより世界へ展開しています。CHA遊学パークは福寿園におけるお茶を多角的に研究するための施設であると同時に、その「CHA」により深く関わり親しんでいただくための体験・観光ができる施設です。



福寿園 CHA 遊学パークの外観

Q:お茶摘み体験をはじめ、こういった体験プログラムを用意されていますか？

A:CHA遊学パークの体験プログラムは、茶摘み体験以外に茶道に親しんでいただく「**茶道マナー体験**」、抹茶を作る「**石臼体験**」、お茶のいれ方を学ぶ「**お茶のいれ方教室**」など、現在は全部で8つの体験を用意しています。体験には全体で年間4,000～5,000人の方が参加されており、海外の方の参加もあります。

これらの体験は事前予約制で、体験料をいただいています。茶摘み体験で摘んだ新芽はお持ち帰りいただき、自宅で天ぷら等にして楽しんでいただけます。

各種体験の詳細は、CHA遊学パークのHP(<https://cha.fukujuen.com>) でご確認下さい。



近畿農政局職員が自宅で作った新芽の天ぷら

Q:新たな体験プログラムも展開されているそうですね。

A:福寿園では、インターネット上の仮想空間「メタバース空間」にお茶をテーマとした「**metaCHA(メタチャ)京・山城ワールド**」を開発し、2024年3月から一般公開しています。福寿園の創業地でもある「京都・山城」の歴史と自然を荘厳な雰囲気表現し、CHA遊学パークに実在する茶室を再現したメタバース空間でVRゴーグルとコントローラーを用いて、アバター姿で抹茶を点てて飲んだり、庭園を散歩できます。インターネットを通じて世界中の人々にお茶を楽しむことができる機会の創出とお茶を囲んだ楽しい時間を提供しています。

体験者の方々の感想

- ・子どもたちにも楽しく遊びながらお茶に触れてもらう体験ができてよかった。
- ・栽培方法や加工方法によって色々なお茶ができることに驚いた。

福寿園 CHA 遊学パークの方からのメッセージ

CHA遊学パークでの体験・展示を通じて、改めてお茶の文化、健康、快適について知っていただき、日々の暮らしの中でお茶に親しんでいただければと思います。